2017年4月15日　日本学術会議公開シンポジウム／第3回 防災学術連携シンポジウム
熊本地震 追悼・復興祈念行事「熊本地震・１周年報告会」ポスターセッション

「熊本地震におけるこどもの遊び環境活性化支援活動について」

- 益城町被災幼稚園・保育園におけるあそび環境改善アドバイス -

こども環境学会 震災復興活動部会　部会長　佐久間治
（九州工業大学大学院 工学研究院建設社会工学系 建築デザイン研究室 教授）

1.支援の背景と目的

こども環境学会では、平成28年4月14日の熊本地震派生後、1週間余りを経た、4月23日「熊本地震についての理事・代議員による緊急役員会議」を開催し、学会としての今後の支援のあり方を検討した。そして、「災害復興活動部会」を立上げ、被災地に対して具体的にどのような支援が可能かを検討した.

こども環境学会としては、こどもたちや子育て世代の方々のPTSD（心的外傷後ストレス障害）からの回復に「遊び」が重要であるという視点にたって、災害急性期よりも復旧期における支援活動内容を模索することを原則とし、被災から1ケ月余り経過した5月24日から現地踏査を数回行い、現地で既に、こどもたちや子育て世代のために緊急支援活動を実践しているユニセフや、セーブチルドレン・ジャパン、ワールドビジョン、ピースボート等と連携・情報交換、あるいは、『熊本地震・支援団体火の国会議』にも出席し、現地の関連行政機関、仮設避難所、保育園、幼稚園、小学校等を訪問・ヒヤリングを行い、最終的には、最も被害が激しかった益城町地域で、既に平常時に近いかたちで再開している保育園や幼稚園（益城町第五保育所だけは、既存施設が被災で使えず、益城中央小学校へ避難しての保育活動を行っていた）の保育環境の改善・活性化こそ、被災されたこどもたちや子育て世代の方々にとっての緊急課題であると判断し、その活動を主体とした支援を行うこととした。

2.益城町保育園・幼稚園におけるあそび環境改善アドバイス
（益城町保育所、幼稚園　園庭活動活性化アドバイス）

益城町の幼稚園・保育所に対しては現地を訪問し、被害状況を具体的に把握すると同時に、特に被害が激しかった第五保育所、益城町第二幼稚園については、園児の外遊びに重要な園庭や建物と園庭との間の中間領域であるテラスや縁側等の空間に沈下や破損被害があって保育環境に支障を来たしていたため、園全体の保育環境をより活性化する具体的な空間的アドバイスが必要であった。よって、園長先生と数度に渡る打合せを行い、今後の復旧から復興期における今後の施設改善の具体的なアドバイスをおこなうと共に、それを図面化して提示した。

特に、第五保育所は、避難先の小学校での保育活動再開、その後、仮設保育所へ転居が計画さていたが、既に建設が進んでいた仮設の園舎には、園庭や中間領域がまったく計画されておらず、保育環境としてかなりの改善が必要と思われたので、その整備の重要性を示す意味でも改善案を図面化により明確に示す必要があり、これを園と町に提示した。（**図1，2**）

3.保育園・幼稚園におけるあそび環境改善アドバイス
（保育環境におけるあそび環境活性化のためのアドバイスブック作成・配布）

住環境の復興にまだまだ時間が必要な熊本地震被災地における保育環境の持つ重要性を感じていたので、益城町や熊本市の他の幼稚園、保育園に対しても、あそびを活性化することによる保育環境の改善のアドバイス支援を検討した結果、『保育環境における、あそび環境改善のためのアドバイスブック』（仮）を作成し、配布することとした。

こども環境学会が、2011年以降に行ってきた東日本大震災後における福島県や宮城県における幼児の成育環境支援活動で得た知見を、熊本県における状況に合わせて再整理し、大規模震災被災地における幼稚園・保育園の保育環境を活性化させるためアドバイスブックとしてまとめた。環境改善のための重要な視点について、ハード面、ソフト面、夫々について分類することで、ハード面については、園舎、園庭、中間領域に細分化した空間的アドバイス、ソフト面については、あそびのプログラムとして、対象年齢別に細分化したあそびのアドバイスとしてまとめた。アドバイスブックは2種類とし、幼稚園・保育園の保育者向けに作成したＡと、仮設住宅団地で暮らす子育て世代の方々やこどもたちのために作成した、あそびのメニュー的なＢを作成した。Ａは益城町と熊本市の主要幼稚園・保育園に、Ｂは仮設住宅団地のみんなも家に配布予定である（**図3，4　今後、5月末までに無料配布予定**）。

これらの一連の活動が、熊本被災地で暮らすこどもたちと子育て世代の方々の成育環境向上に何らかの支援となることを願っている。

■謝辞：　本支援活動は、公益財団法人ベネッセこども基金の『「熊本地震」で被災した子どもの支援活動助成』により助成を受けて実施された『被災保育園（幼稚園）の保育環境正常化のための緊急アドバイス支援』を兼ねたものである。ここに記して感謝の意を表する次第である。

図１　益城町仮設第五保育所
（左：建設工事中の写真、右：中間領域木製デッキ追加アドバイス図面）

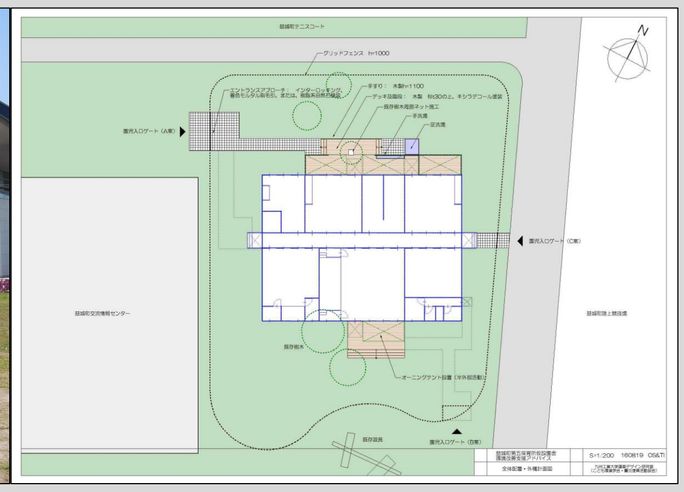

図2　益城町仮設第２幼稚園（左：震災後の写真、右：園庭活性化活用アドバイス図面）

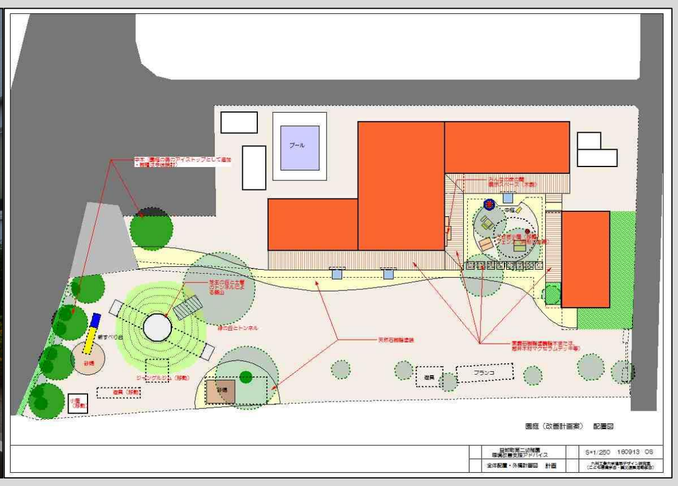

図3　保育環境におけるあそび環境活性化のためのアドバイスブック（左：Ａ、右：Ｂ）

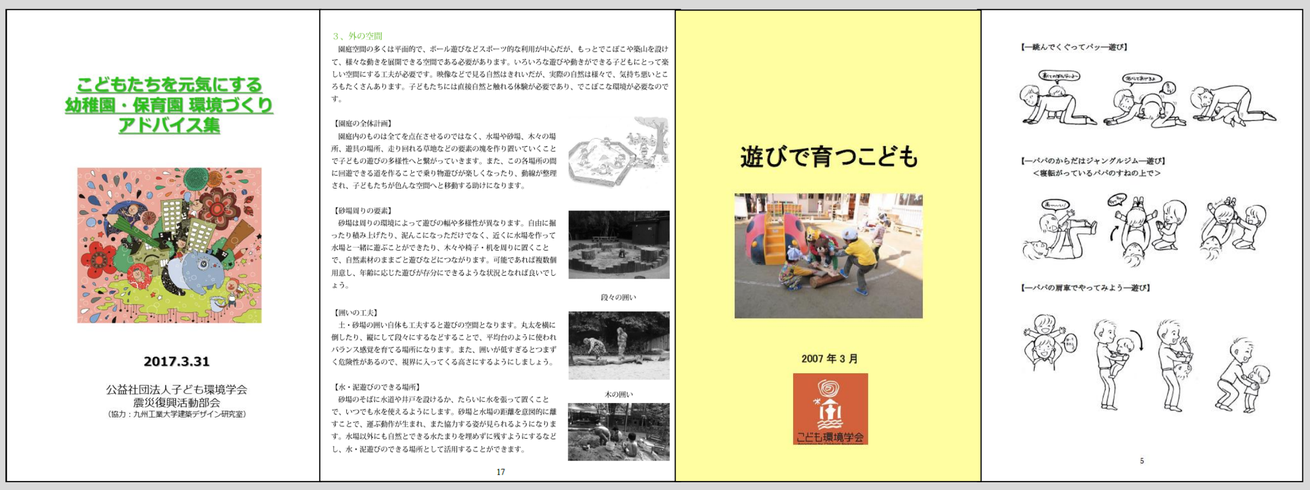

図4　保育環境におけるあそび環境活性化のためのアドバイスブック
（あそびを活性化する空間の視点）

空間	環境計画視点		項目
園舎	活動室の用途	a	空間ごとで遊具を違うものを置いたりなど空間の差別化が見られるのか
	保育室のコーナーとパー	b	保育室のコーナーのつくり方として、棚や仕切りを用いてこどもが椅子や床に座った時にそこが囲まれた空間になるように作られているのか
	園舎の床	c	保育室のコーナーのつくり方として、床の仕上げや素材を変えることでこどもの活動を差別化しようとされているのか
	室内環境の調節	d	室内環境の調節として採光などへの配慮が見られるのか
	広い空間	e	広い室内空間においてその園の児童数に合わせて必要であると考えられる広さが確保されているのか
	食べる空間	f	食事をする空間は落ち着いて食べる空間になっており、こども同士の交流が見込めるのか
	静かな空間	g	落ち着いた雰囲気の静かな空間の確保ができており、他の空間から干渉されないように配慮されているのか
	階段と舞台	h	階段や舞台などの室内空間においてこどもの視点が変わるような空間があり、そこでこどもが活動できるだけの空間が確保されているのか
	壁の装飾	i	壁にある装飾がこどもの活動に直接関係するものになっているのか
	扉と窓の開口部	j	開口部においてこどもの視点に配慮した高さになっているのか
	廊下の回遊性	k	廊下に回遊性があり、こどもが溜まって遊ぶような遊び場としての幅が存在するのか
内外中間領域	外廊下・縁側の幅	a	園内に内と外をつなぐ中間の空間があり、内と外のつながりがよいか（２階以上のつながりも考慮する）
	外廊下・縁側の幅	b	縁側や外廊下は外部に十分に開放されていて外を感じられる空間となっているのか
	憩い集いの場	c	中間の空間で憩い集いの場となるように、こどもたちの活動が起こるような工夫が見られるか
	雨天時にも利用できる空間	d	縁側や外廊下は十分な奥行き（３m程度）があり、雨天時に活動できる空間になっているのか
	屋上など見渡す空間	e	屋上に活動の場があり、周辺の地域や園庭などが見渡せるような空間が存在するのか
	手・足洗い場	f	手・足洗い場は子どもたちの活動に十分対応できるだけの機能が存在し、子どもたちの活動を妨げていないか
園庭	園庭の全体計画	a	園庭全体として要素ごとのまとまりが見られるような配置になっており、動線が整理されているのか
	砂場周りの要素	b	砂場の周りには砂遊びを楽しくさせるような要素が近くにあるのか
	囲いの工夫	c	砂場の周りの囲いなどの工夫は見られるのか
	水・泥遊びのできる場所	d	水場はこどもが自由にいつでも水を使えるような環境があり、砂場との関係性が見られるのか
	教室前の菜園・花壇	e	その園にこどもに関わりのある菜園や花壇があり、こどもが直接関わっているのか
	園庭には積極的に木を	f	園庭内に多くの動植物があり、こどもの活動に直接関われる環境があるのか
	丘や斜面地	g	園庭内に斜面地があり、こどもたちのそこでの活動が見られるのか
	遊具	h	園庭内の遊具は集中して遊べるように配置の仕方や周りの要素に配慮されているのか
	道具・素材置き場	i	道具や素材を園庭の遊びのコーナーごとに即したものを設け、こどもが自由に使えるようになっているのか